

## 編集後記・Editorials

魚類学雑誌  
40(4): 526, 1994

## 学名の著者（複数）名の連結表記方法

学名につく複数の著者名の連結方法は国際動物命名規約でも定められていませんが、魚類学雑誌ではラテン語（仏語ではない）の *et* を用いてきました [例: *Abalistes stellaris* (Bloch *et* Schneider, 1801)]. 今後、この方法を改め、複数の著者は *and* で連結して表記することにします。従来の方法を用いると、シノニムリストや本文で複数の著者をどのように連結して表記するか複雑になります。例えば、シノニムリストで、原記載のときには *et* を用い、そうでないときには *and* を用いるのか、という使い分けに関する疑問も生じます。また、分類学以外の研究者にとっては、このような使い分けは繁雑で、混乱や誤解のもとにもなります。また、英文を使用する多くの国外の雑誌 (*Bulletin of Zoological Nomenclature* も含む) では、複数の著者の連結に *and* や *&* を用いています。

従来 *et* を用いてきた根拠は必ずしも明確ではありませんが、学名がラテン語であるから連結にもラテン語を使用してきたようです。しかし、著者名は学名を構成する要素ではありませんし、極論すれば連結表記に日本語

を用いても規約に反するわけではありません（スペイン語圏では *y* を用いている）。簡明で、混乱を生じない表記方法が最良ですので、上記のように改めることになりました。  
(KM)

昨年末に実施した和文誌に関するアンケートは、1月中旬現在すでに過半数の会員の方から解答をいただきました。本当にありがとうございます。アンケートを実施するにあたっては、回収率の悪さを危惧する声もありましたが、まさに杞憂でした。今後、アンケートに集約された皆さんのご意見をもとに、編集委員会が中心となって魚類学雑誌の進むべき方向を議論していくことになります。

ところで、昨年1年の投稿数は過去最高の72篇となりました。迅速な出版がそれなりに評価された結果だと思います。海外にもこの噂は徐々に伝わっているようで、4th IPFCの会場でも何回か驚かれました。投稿数が昨年の倍にでもならないかぎり、今後もこのペースで出版を続けられる見込ですので、皆さんの積極的なご投稿をお待ちしております。本年もよろしくお願い致します。  
(MM)